日本の名湯(一)　白浜温泉(和歌山県)--大海原を一望する日本屈指の古湯

先に、日本の温泉地の大きな魅力、特色の一つは、風光明媚な海辺に温泉地が多く、海を一望しながら温泉入浴と海浜保養を同時に楽しめることである、と述べた(**文化歴史**欄「日本の温泉の歴史と文化(四)」参照)。日本の歴史ある名湯を紹介する第一回目、和歌山県田辺市の白浜(Shirahama)温泉(白浜温泉という温泉地名は他にもあるため、区別して南紀白浜温泉とも言う)は、太平洋を望む代表的な海辺の温泉保養地である。

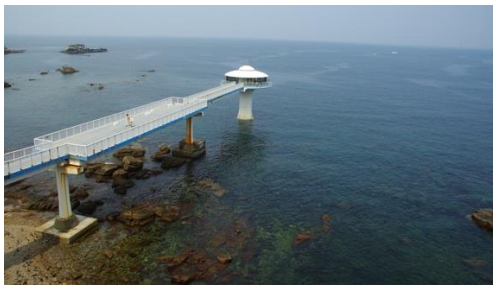
白浜温泉の白良浜(Shirara-hama)海岸(提供：石川)

温泉地の歴史は古い。日本では奈良時代の西暦 720 年に完成した最初の国史『日本書紀』に「牟婁温湯(Muro-no-yu)」や「紀温湯(Ki-no-yu)」の名でたびたび登場する。そのため白浜温泉は、道後温泉、有馬温泉と共に「日本三古湯」と称えられる。

『日本書紀』での初出は、飛鳥時代の 657 年 9 月。前天皇(孝徳天皇)の皇子である有間皇子(Arima-no-miko)が病気療養を名目に「牟婁温湯」に出かけ、「観彼地、病自除消(彼の地を観ただけで病気が自然に治ってしまいました)」と、伯母の女帝(斉明天皇)に白浜温泉を賛美した。これを聞いて斉明天皇は悦び、ぜひ行ってみたいと思われた、という。

斉明天皇は実際に翌年の 658 年 10 月、「紀温湯に行幸」した。その留守をねらってクーデタの企みがあったと『日本書紀』は記す。白浜温泉は一転、悲劇の舞台となる。その話は後に紹介したい。

白浜温泉は、飛鳥時代から都があった近畿地方の南部を占める紀伊半島の太平洋岸に湧く。黒潮流れる太平洋の荒波に浸食された海岸崖や岩盤を形成する砂岩・泥岩の窪み(凹所)から自然湧出していた。白浜温泉の観光スポットの一つ、海中展望台の窓からよく目をこらすと、魚が遊泳する海中からぷくぷくと温泉が今も湧き上っているのに気づく。



海中展望塔(提供：石川)

紀伊地方にある白浜温泉は「紀温湯」とも呼ばれたが、別名の「牟婁温湯」の「牟婁」は「室」と同じく、入り江や洞窟、奥まった所を意味する。その名のとおり、海岸一帯の砂岩・泥岩が自然にえぐれた窪み・穴から温泉が湧いてくる所を天然の湯壺(浴槽)として入浴利用してきた。飛鳥時代から天皇や皇族が訪れ、入浴したであろうその湯壺が、湯崎(Yuzaki)海岸の突端に設けられた公共露天風呂「崎の湯」の男性用露天風呂内に残されている。貴重な温泉史跡である。

古代の天然湯壺跡。「崎の湯」露天風呂の窪み(提供：石川)

露天風呂「崎の湯」の温泉は、以前の砂岩岩盤割れ目から湧き出ていた自然湧出泉ではなくなり、近くで掘削した行幸(Miyuki)源泉を引湯して注ぎ入れている。約 80℃と高温で、泉質は塩化物泉。崎の湯露天風呂に向かう道路手前に行幸源泉の温泉井があり、貯湯槽からあふれ出る源泉を観察できるが、成分が濃くて析出しているためか湯の色は見事に真っ白である。

露天風呂「崎の湯」は白浜町が運営する日帰り温泉入浴施設のため、入浴料金も安い。海岸の岩畳のような岩盤を活かしてこしらえた露天風呂の眼前には太平洋の大海原が広がる。入浴していると荒波のしぶきがかかることもある、爽快感がたまらない。

太平洋を望む「崎の湯」露天風呂（提供：石川）

火山活動が見られない紀伊半島の白浜温泉で、なぜこれほど高温の温泉が湧いているのか、その成因については諸説考えられてきた。最近では、太平洋プレートの沈み込みに伴う高温高圧の塊の脱水が熱源になっているという説が有力になっている。

古代より千数百年間、自然湧出泉を保ってきた白浜温泉で、掘削が盛んになるのは、海水浴場も出来て観光開発が進む 1900 年代に入ってからのこと。湯崎海岸を中心に「湯崎七湯」と呼ばれていた地区から、美しい白砂の砂浜で海水浴客に人気の白良浜や内陸部まで温泉のある地域が広がり、一大温泉リゾートとなっていく。それに伴い、温泉地の名称も白良浜の人気にあやかって白浜温泉と総称されるようになった。現在では、近隣にジャイアントパンダのいるアドベンチャーワールドなど観光施設も多い。

白浜温泉には 70 軒ほどの宿・旅館がある。海辺の温泉地だけに新鮮な魚介類の刺身や料理が自慢だが、海際や高台に建つホテル・宿には海を見渡せる眺望自慢の大浴場や露天風呂、一人で入浴する樽風呂などを備えた所が多い。

また、「崎の湯」露天風呂を含めて町営共同浴場が５か所、さらに民間経営の日帰り温泉入浴施設も数か所ある。白良浜にも共同浴場の一つ「白良湯(Shirara-yu)」があり、和風の民家のような建物が懐かしさを漂わせている。白浜温泉ではこうした温泉宿や入浴施設で、主泉質の塩化物泉だけでなく、ナトリウム-炭酸水素塩泉(重曹泉)、硫黄泉など３種類の異なる泉質を体験できる。

白良浜の町営共同浴場「白良湯」（提供：石川）

大阪や名古屋からは鉄道で、東京からは飛行機で白浜空港まで短時間で訪れることができる白浜温泉は、近畿地方有数の華やかな観光温泉地となった。しかし訪れる日本人でも白浜温泉の歴史や、まして1400年も前の飛鳥時代に天皇・皇族をまきこむ悲劇の舞台となったこと、当時からの浴槽跡が残されていることを知る人は少ない。

その悲劇は、有間皇子が斉明天皇に「牟婁温湯」の素晴らしさを報告したことから始まる。翌年の10月に「紀温湯」に行幸、皇太子の中大兄皇子(Naka-no-Oe-no-miko：後の天智天皇)も同行した。その留守中、都と皇宮を守る留守官の蘇我赤兄が有間皇子に「天皇所治政事有三失(天皇の政事には三つの失政があります)」と、謀反を唆した。その一方で使いを天皇と皇太子のもとに送り、有間皇子が謀反を起こそうとしたと告げている。有間皇子は捕らえられて「紀温湯」に護送され、中大兄皇子の尋問を受けた。有間皇子は「天与赤兄知。吾全不解(天と赤兄とが知っているでしょう。私は何も存じません)」と答えるのみだった。

温泉場は本来、平和な空間である。だから有間皇子は「紀温湯」から離れた場所まで移送されて処刑された。連行途中に有間皇子が詠んだ歌が『万葉集』に残されている。こうして中大兄皇子にとって皇位を争う相手はいなくなったのである。

【温泉地DATA】
・所在地：和歌山県白浜町
・アクセス：JRきのくに線白浜駅からバス9～16分。紀勢自動車道南紀白浜ICから約4km
・泉質：ナトリウム-炭酸水素塩・塩化物泉、ナトリウム-塩化物泉、含硫黄-ナトリウム-塩化物泉
・泉温／pH：40～83℃／pH7.6～8.5
・源泉数／湧出量／湧出形態：約50本／毎分約1万2000L／掘削自噴・動力揚湯
・宿泊施設：宿約70軒
・温泉入浴施設：町営共同浴場5か所、民間経営日帰り温泉施設7か所
・照会先：白浜観光協会 TEL0739-43-5511

本文　石川理夫